演題名：疾患別服薬指導ガイダンスデータベースの開発とその利用

発表者・共同研究者名、会社名：

メディカルデータベース株式会社(1)　株式会社ユニケソフトウェアリサーチ(2)

○柴田里枝子（しばたりえこ）(1)、栄羽浩之(2)、杉平直子(1)

目的：

近年、調剤薬局における服薬指導業務では、かかりつけ薬局の重要な役割として、特に慢性疾患患者などに対する総合的な薬物治療管理の実践が求められている。我々はすでに、電子薬歴での運用が可能な薬剤別服薬指導ガイダンスデータベース、コンプライアンス服薬指導ガイダンスデータベースを開発しているが、今回は、疾患ごとの問題について、POS に基づいた薬物治療管理と指導及び SOAP 形式の薬歴記載を支援する服薬指導ガイダンスデータベースの開発を行った。

方法：

特に慢性疾患を有する患者に対して服薬指導や薬学的評価を行う場合、疾患に関する種々の知識や情報が必要となる。そこで各疾患における代表的な自覚症状、経過観察時に必要な疾患特有の検査値、生活指導、注意観察等の項目について、標準的な情報をそれぞれ収集しデータ化を行った。

さらに服薬指導場面で想定されるプロブレムのリストを疾患ごとに立て、薬物治療管理の目標を設定した。

プロブレムを解決する手段として、患者からの情報（自覚症状など）や薬剤師の客観的判断情報（観察所見、検査データなど）をもとに、評価、指導、次回の指導管理プランまでの一連の流れをガイダンスできるよう構造化した。また薬剤師向けの疾患関連資料、患者向けイラスト入り疾患説明画像を服薬指導支援用データとして、必要箇所に付加した。

結果・考察：

今回、糖尿病、高血圧、高脂血症、骨粗鬆症をはじめとする 10 疾患についてデータの作成を行った。これらのデータにより、疾患に関連して想定される問題について、(1)情報収集、(2)問題の明確化、(3)問題を解決するための計画・指導、(4)計画・指導の実行といった POS のプロセスに沿って薬物治療管理をサポートできると考えられた。

また患者からの情報や薬剤師の判断を選択していくことにより、プロブレムに関連した SOAP 形式の指導記録が同時に行えるよう、データを構成した。さらに疾患関連の資料や患者向け画像を利用することにより、より密度の濃い服薬指導を行うことが可能となると思われた。

結論：

今回のデータベースを利用し、薬剤師が薬学的見地から患者の疾患の問題に関与することで、薬物治療効果の向上が期待できると思われる。

既存のデータベースに加え、今回の疾患別服薬指導ガイダンスデータベースを電子薬歴等のシステムで総合的に運用することにより、薬剤師業務の標準化と効率化に寄与できるものと考える。